

# 難解な「Dデータ活用」領域の授業研究を進めるための試み(案)

## 「3年 表と棒グラフ」の授業研究の場合で

2024. 3

算数教育ネットワーク岡山

次の資料を提示し、以下の1～8に取り組む。

下の表は、4月・5月・6月に学校で、3年生がけがをした場所と人数を表したものです。  
下の表を見て問題を作り、といていきましょう。

けが調べ (4月)

場 所	人数(人)
校 庭	12
体育館	4
ろう下	5
教 室	6
その他	3
合 計	30

けが調べ (5月)

場 所	人数(人)
校 庭	13
体育館	10
ろう下	3
教 室	5
その他	2
合 計	33

けが調べ (6月)

場 所	人数(人)
校 庭	10
体育館	7
ろう下	8
教 室	9
その他	2
合 計	36

- 1 単元のみあて(例)を設定する。

調べたいことに合った整理のしかたを考え、表やグラフに表して読み取り、せつ明しよう。

- 2 授業のポイントとなる項目を決める。

- ・小学校学習指導要領算数編 D1(ア)に関して、P170～171 から 授業のポイントとなる項目を決める。

「問題」

「観点」

「表現」

「データの特徴や傾向」

「背景の考察」

「伝え方」

3 「授業のポイントとなる項目」の内容を検討する。

<u>問題</u>	場所ごとの 4月・5月・6月のけがの人数には、違いがあるのだろうか。	場所ごとの 3か月全体のけがの人数は、どうなっているのだろうか。
<u>観点</u>	場所ごとの 4月・5月・6月のけがの人数の違いを調べる。	場所ごとの 3か月全体のけがの人数のようすを調べる。
<u>表現</u>	けがの人数を月ごとに分類整理した表やけがの人数の違いが分かる棒グラフに、表現する。	けがの人数を3か月まとめた表やけがの人数が月別でも3か月まとめて分かる棒グラフに、表現する。
<u>データの 特徴や 傾向</u>	けがの人数の多い場所・少ない場所について、月ごとに違いがある。	3か月全体のけがの人数の多い場所・少ない場所がある。
<u>背景の 考察</u>	「児童の運動能力の向上」・「降雨による運動時間の減少」・「場所ごとの運動の適性」等から考察する。	「児童の運動能力の向上」・「場所ごとの運動の適性」等から考察する。
<u>伝え方</u>	特徴や傾向を見だし考察した表やグラフを用いて、学級内で発表し説明し伝える。	特徴や傾向を見だし考察した表やグラフを用いて、学級内で発表し説明し伝える。



4 授業のポイントを基に、学習支援のポイントを文章化する。

「場所ごとの 4月・5月・6月のけがの人数には、違いがあるだろうか。」の問題をもち、それに応じて「場所ごとの 4月・5月・6月のけがの人数の違いを調べる。」という観点を設け、けがの人数を月ごとに分類整理した表やけがの人数の違いが分かる棒グラフに、表現する。

そして、「けがの人数の多い場所・少ない場所について、月ごとに違いがある」等のデータの特徴や傾向を捉えて、その背景を「児童の運動能力の向上」・「降雨による運動時間の減少」・「場所ごとの運動の適性」等から考察していくようにする。

さらに、特徴や傾向を見だし考察した表やグラフを用いて、学級内で発表し説明し 伝えることができるようにする。

また、「場所ごとの 3か月全体のけがの人数は、どうなっているのだろうか」の問題については、それに応じた観点を設け、表やグラフを工夫して 表現する。

そして、データの特徴や傾向を捉えて その背景を考察し、学級内で発表し説明し 伝えることができるようにする。

5 授業のポイントを達成する 発問・助言・提示する資料などを、検討する。

6 単元の指導計画の中で、授業公開する場面を決め、本時案を作成する。

7 単元全体の指導を実践し、公開授業では 参観教員と研究協議を行う。

8 研究協議をふまえ、単元全体で 授業のポイントを達成する発問・助言・資料・板書などが効果的であったか 改善点はないか検討し、記録する。